

## 自転車に安全に乗るために（「弱者」に優しく）

校長 博田 英明

皆さん、おはようございます。校長の博田です。

始業式にあたり、今日は生徒の皆さんにお願いしたいことについてお話しします。皆さんの命やほかの人の命を守るためのお願いです。

それは交通安全、特に安全な自転車の乗り方についてです。3月の修了式でも私や生活指導部の先生からお話をさせていただきましたが、大切なことなので今日もお話しします。まずクイズをひとつ。現在、自転車ヘルメット着用率の全国平均は何%くらいでしょうか？答えは昨年の数値ですが、13.5%です。着用率が最も高いのは愛媛県で59.9%、2位は大分県で46.3%、3位は群馬県(43.8%)と続き、東京都は全国21位の10.5%でした。

1位の愛媛県は2015年に通学時のヘルメット着用が義務化されるなど子どもの着用率が高いことが全体の数値を上げているようです。このデータを見ると、上位を自動車社会の地方が占めています。地方では自転車利用者の多くを免許を持っていない高校生以下が占められ、校則などでヘルメットの着用が義務化されることが多いため着用率が高いと思われます。一方、都会はそれらの規則がなく、ヘルメットをかぶらない大人の自転車利用者が多いため着用率が下がっているようようです。

実は昨年度、本校の生徒が自転車事故に遭う回数は多く、クルマと接触して救急車で運ばれたという事故や、近隣の方からは本校の生徒が坂を自転車で猛スピードで走り降りてきたためにとても危ない思いをしたというお電話もいただきました。私はこうしたことを聞いて残念に思うとともに、とても不安になりました。

自転車は気軽に利用できる車両ですが、一步間違えると大きな事故に繋がります。皆さんもご存じのとおり、道路を通るときは人もクルマも自転車もすべて「道路交通法」という法律に従わなければいけません。クルマやバイクの運転は、教習所に通り試験に合格して免許を持たなければなりません。しかし自転車は、乗れた時が免許皆伝となります。

自転車は二つの車輪が付いた車両となり、道路交通法では車両の一種「軽車両」に分類されます。そして車両の運行中に人に怪我を負わせたり、ものを壊したりすると、その損害の賠償責任が発生します。運転者の過失や損害が大きい場合には、現行犯逮捕もあり得ます。私たちは自転車に乗る際、「軽車両の運転者」として加害者にもなり得るという意識を常に持たなければなりません。

皆さんの中には自転車に乗っていて、クルマとの事故に遭った人もいるでしょう。そのような時は「弱者保護の原則」というものがあり、クルマと自転車だと明らかに自転車の方が弱者です。ですから「自転車にも悪いところがあったよね」といわれる過失があっても、クルマの運転手は最大限の賠償をしてくれます。しかし自転車と歩行者だと、皆さんが強者で歩行者が弱者です。歩行者に怪我などをさせてしまうと、大変なことになります。常に相手つまり弱者の立場になって自転車に乗るようにしてください。皆さんが歩いている時、猛スピードで自転車が向かってきたらどう思いますか？ つまりはそういうことなのです。

「道路上は一日の中で唯一、命懸けの場所だ」という言葉を聞いたことがあります。自分には何の落ち度がなくとも、クルマが皆さんの自転車に向かってくることがあります。その逆に自分の不注意な自転車の運転により、自分だけではなく他の人の人生を奪ってし

まうこともあるのです。決して他人事ではありません。

かつて私がある高校に勤務していた時、一人の生徒を交通事故で亡くしました。朝の通学時、急いでいたこの生徒は、赤になったばかりの信号を無視して自転車で横断歩道を渡ろうとして、安全確認が不十分であったためバスにはねられて亡くなりました。本当に無念でした。失った命は帰ってこないのです。改めて道路は命懸けの場所であることを忘れてはいけないと思いました。

さて、東京都では条例により令和2年（2020年）4月から自転車保険加入が義務化されています。自転車でも加害者となった場合に、数千万円の補償を請求される場合もあります。万一に備えて必ず保険へ加入してください。コンビニで簡単に手続きができます。改めて自転車を安全に乗ることについて学び、交通安全への意識を高めるとともに、今後本校の生徒が事故の被害者にも加害者にもならないよう、交通事故を絶対に起こさないよう、一層気を引き締めて日々を過ごしてもらいたいと思っています。

最近ではドライブレコーダーを付けているクルマも増えています。その記録映像を見せていただきましたが、ハッとする場面や一時停止違反、信号無視等の交通違反による出会い頭の事故が多く、交通事故の怖さを感じることができました。自転車による運転も録画されていることが増えました。交通事故の被害者だけでなく、加害者にもならないように気を付けなくてはならないと改めて思いました。近隣の方が危ない思いをされたことを考えると、急な坂を下る際は自転車を降りて押して歩くことが良いでしょう。一人ひとりのこうした心がけで事故は十分防ぐことができます。

最後になりますが、私たちの周りには危険な状況が常にあります。そうした一つひとつの状況にしっかり備え対策を取った上で、充実した第1学期をスタートしてほしいと願っています。生徒の皆さんの安全と健康を第一に考え、始業式での私からの挨拶とします。